

第4回国際水協会論文作成ワークショップ開催
-Mtibaa Slim 君がプレゼンテーションで金賞受賞-

第4回国際水協会論文作成ワークショップ(4th IWA Publication Workshop)が3月7日(月)～11日(金)の日程で、マレーシア日本国際工科院(MJIIT)を会場に開催された。本ワークショップは、博士後期課程やポストドクなど論文作成になれていない若い研究者を対象に、いかにして論文を執筆し、さらにはいかに出来るだけ良質の雑誌に掲載するか学ばせることで彼らの研究者としてのキャリアを支援する目的で始められた。今回は排水処理の大家である Gustaf Olsson ルンド大学教授、IWA 会長である Helmut Kroiss ウィーン工科大学教授、Tobias Bamard ヨハネスブルク大学教授および後藤雅史 MJIIT 教授という豪華な講師陣であった。

参加のためには開催までに論文の粗原稿作成が求められ、5日間論文作成に没頭するというシビアなワークショップであるにも関わらず、国内外からおよそ30名の参加があり、本学からは、榊原厚一(持続環境科学専攻1年)、Mtibaa Slim(国際地縁技術開発科学専攻1年)および丸山優樹(生物資源科学専攻1年)の3名が参加した。ワークショップでは初日から良いタイトルの付け方等の講義の他、参加者間でお互いの論文を評価し、判らない場所を説明し合うことで一人では気がつかなかった基本的事項の説明不足や論理の飛躍等を認識するなど実践的な講習が行われた。

また最終日は、各参加者がスライド3枚以内、3分以内でそれぞれの研究内容を発表するという課題が与えられ、プレゼンテーションが行われた。これについては、講師陣や実行委員会が採点し、評価の高かった3名が閉会式で表彰された。その結果、Mtibaa さんの発表が最も優れたプレゼンテーションとして表彰された。参加者らは「基礎から論文の書き方が学べて良かった(丸山)」、「参加者からのアドバイスや疑問点から、自分の論文がどうなのか具体的に見えた(榊原)」、「今回WSで50%の出来が80%まで上がり、参加してとても満足している(Mitibaa)」との声が聞かれた。本ワークショップは来年もMJIITで行われる予定である。



ワークショップの様子



Durrishah binti Idrus UTM KL キャンパスダイレクターから表彰を受ける
Mtibaa くん